

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人石川県国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

地域在住の外国人住民のパートナーとして地域の日本語教室で活躍できる人材を養成する。開講日時を平日夜、土曜日とすることで、特に社会人を受講者と想定して、より幅広い人材を地域日本語教室の日本語サポーターとして取り込めるようにする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
1月12日	石川県国際交流センター	今井武 星亨 古林秀美 山森通子	日本語実習 準備作業の 検討	日本語実習のための準備を受講生にさせる際に、どのようなポイントについて重点的に指導するか打ち合わせを行った。

3 養成講座の内容について

- (1) 講座名:「外国人に日本語を教えたい人のための基礎講座 in 金沢」
- (2) 目標:地域在住の外国人住民のパートナーとして地域の日本語教室で活躍できる人材を養成する。
- (3) 受講者の総数 23人
(出身・国籍別内訳 日本21人、中国2人)
- (4) 開催時間数(回数) 24時間 (10回)
- (5) 参加対象者の要件:地域で暮らす外国人住民に対する日本語教育に関心を持つ者
- (6) 受講者の募集方法:県内関係機関に郵送、当協会メーリングリストに情報掲載。
- (7) 会場:石川県国際交流センター 大研修室
- (8) 使用した教材・リソース:「にほんご宝船」「みんなの日本語」「標準的なカリキュラム案」「リソース型生活日本語」等

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
11月26日 9:30-12:30	地域日本語教育の現状	(財)石川県国際交流協会講師 今井武	16名
11月30日 18:30-20:30	日本語教室の中で何が行われているか1	(財)石川県国際交流協会講師 星亨	18名
12月7日 18:30-20:30	日本語教室の中で何が行われているか2	(財)石川県国際交流協会講師 今井武	20名
12月10日 9:30-12:30	日本語教育についての考え方	(財)石川県国際交流協会講師 星亨 (財)石川県国際交流協会国際交流員 原口リリアン	19名
12月14日 18:30-20:30	外国語としての日本語の知識1	(財)石川県国際交流協会講師 星亨	19名
12月21日 18:30-20:30	外国語としての日本語の知識2	(財)石川県国際交流協会講師 今井武	22名
1月14日 9:30-12:30	交流型日本語授業1	(財)石川県国際交流協会講師 星亨 石川県日本語講師会	18名
1月18日 18:30-20:30	交流型日本語授業2	(財)石川県国際交流協会講師 星亨	18名
1月21日 9:30-12:30	交流型日本語授業3	(財)石川県国際交流協会講師 今井武 石川県日本語講師会	17名
1月25日 18:30-20:30	交流型日本語授業4	(財)石川県国際交流協会講師 今井武	20名



(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

アンケート回答者19名中18名が「講座に通ってよかったか」という質問に最高の点数を与えていた。また、うち13名が「地域の日本語教室にすぐに参加したい」と回答した。

②実施主体からの研修内容結果評価

平日夜の開催のため、受講者がどれほど集まるか心配したが、20名以上の応募があり、受講者のほぼ全員が修了し、講座は成功であった。10回という非常に短い講座だが、それでも地域日本語教室で教えてみたいという声が多く聞かれ、今後金沢およびその周辺の地域日本語教室で活躍してもらえる人が出てくるものと思われる。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

次年度も当協会にてボランティアベースの地域日本語教室を実施する予定である。今回の講座受講者にも日本語サポーターとしての活躍を呼びかける。情報は修了者向けのメーリングリストで提供する。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

当協会では県内各地の地域日本語教室に対する支援を行っており、講座修了者には各教室の情報を提供している。修了者向けメーリングリスト等を通じ、今後も講師募集の情報等を提供する予定である。

② 研修後の人材活用

当協会が実施する予定のボランティア日本語教室を主に、金沢およびその周辺の地域日本語教室で実際に活躍してもらえるよう、講座修了者に各教室の情報を提供していく予定である。

(12) 今後の課題

平成23年度より当協会でもボランティアベースの相互交流型日本語教室を運営しており、今後は講座修了者をその教室に積極的に取り込んでいきたいと思っている。

今後、適切なサポートを当協会講師が行いながら、それでもあくまで日本語サポーターが中心となって活動していくような地域日本語教室を協会内にうまく作れるかどうか課題である。